

# IVR

## -Interventional Radiology-

### 【IVR 治療について】

IVR はインターベンショナル・ラジオロジー (Interventional Radiology) の略で、日本語では画像下治療と訳されます。X線透視やCT、超音波などの画像診断装置で体の中を見ながらカテーテルと呼ばれる小さい管や針を用いて治療を行います。現在、さまざまな医療場面で活躍の場を広げている治療法です。

### IVR 治療のメリットは？

外科手術のように皮膚を切らずに、臓器や血管の治療ができます。そのため、患者さんの体への負担が圧倒的に少ないという特徴を持っています。医療器具を入れる穴も数ミリ程度と小さく、器具を抜いた後は縫う必要もないため、傷もほとんど残りません。

### どのような治療ができますか？

主にカテーテルを血管内に通し、CT や MRI 検査で見つかった動脈瘤の破裂を未然に防ぐために、コイルやステントグラフトと呼ばれる器具を用いて治療を行います。また心筋梗塞や脳梗塞のような血管のつまりや狭窄を治すこともできます。

肝細胞がんなど一部のがんに対しては、一般的な化学療法とは異なり、がんを栄養する血管から抗がん剤を直接注入する治療もできます。

当院のIVRは24時間いつでも緊急対応できる体制をとっています。

各診療科のIVR治療については、病院ホームページの「診療部門のご案内」よりご覧ください →→→→→→→



ご不明・ご心配なことは診療放射線技師にお尋ねください。  
中央放射線部ホームページも是非ご覧ください →→→→→→→  
<https://aichi-med-u-radio.com>



### 【当院の最新機器の紹介】



フィリップス  
Philips社

アズリオン  
Azurion7 C20with FlexArm

2021年1月導入

### 【最新装置の特徴】

従来装置よりも被ばく低減が可能で、画像処理技術 (ClarityIQ) によって、少ないX線量でも高画質を担保できます。

DRLs2020 (診断参考レベル)	1400mGy
Azurion7 C20 (本装置)	917mGy

\*肝動脈化学塞栓療法における装置表示線量(中央値)

8つの可動軸を搭載したCアームで治療疾患毎に合わせた様々な方向からのアプローチが可能となりました。

救急医療でも活躍しており、周辺機器を考慮したレイアウトで使用可能なため、様々な救急患者に対して迅速に対応できるようになりました。

2023年3月作成